

四国・いまばり

今治スタイル

いまばり
四国・今治
IMABARI

モノづくりの原点はヒトである



今治スタイル 産業編

Contents 目次

- 3 造船産業 今治は海の首都
- 5 道を切り拓く人
- 7 タオル産業 それはジャパンクオリティ
- 9 守ること 進むこと
- 11 食品産業 宮殿でつくる タレ
- 12 世界でひとつだけの味
を生み出す
- 13 観光産業 ココロが元気になる旅
- 14 今治に 人を呼ぶひと
- 15 伝統産業 世界に誇る 美しき美しき豊の波
いにしえと数百年後の
未来をつなぐ
- 17 農業 美味しいものは景色のいいところでうまれる
瀬戸内の島で
ワインづくり
- 19 特集ページ どーなる!? イマバリ
今治の未来を
つくるひと
- 21 インフォメーション

オリジナルの人生をつくれればいい

四国の片田舎で世界につながる仕事を
している人がたくさんいると聞いたら驚くでしょうか

都会だ！ 田舎だ！ 大企業だ！ 中小企業だ！

そんな価値観にまどわされることなく

自分の仕事を誇りに思う人が 今治にはたくさんいます

今治スタイルV01・2 産業編では

日本一の産業 そこで生み出されたモノ

そこではたらくヒトをテーマとして

今治に住む人生のセンパイたちに

日々の暮らしや大切にしていることについて
じっくりとお話をうかがいました

生きていくには 多少のお金は必要です

お金を得るには 働かなくてはなりません

どうせ働くなら 楽しい方がよくないですか

どうせ働くなら 誇りをもてる仕事をしたくないですか

さあ、あなたの人生をデザインする旅へ。

B o n Voyage!

IMABARI
STYLE



しまなみ海道の今治北インター付近を走っていると、
そびえ立つクレーンと造船所群に目を奪われる。
今治市は、古くから造船のまちとして栄え、
現在も世界有数の「海事都市」として知られている。

今治は海的首都



国内で造られる船の三隻に一隻がメイドイン今治だということは、実はあまり知られていない。今治市には十四の造船所があり、造られている船の数、量ともに日本一を誇る。

エンジンやプロペラ、レーダーなど数多くの部品を必要とする造船産業。今治市内には資材メーカーや鋼材商社、機器メーカーといった多くの関連企業がある。そのため、今治に拠点を置く造船所は、部品の大半において市内を中心に、近い距離で調達が可能。結果として完成までの所要時間やコストを節約できるのだ。

また、忘れてはいけないのが船主、船のオーナーの存在。この地の船主である「EHI ME SENSU」という言葉は、世界の海運界で通じる国際語になっているそうだ。外国との間で物や人を運ぶ外航海運では、日本の外航船の30%を市内の船主が保有しており、資産価値にして約2兆円ともいわれる。市内にはシツ

プファイナンスを手掛ける金融機関や海運関係の商社、海事事務所など、船主向けの企業も数多くある。

海運・造船・船舶用機器、これら船にまつわるさまざまな企業が、日本一の海事クラスターを形成し、世界的な地位を占めている。今では市内の海運関連企業は500社以上、1万人を超える人たちが船に関わる仕事をしている。まさに、今治は「海的首都」といえるだろう。

あくなき挑戦とたゆまぬ努力により、前進し続けてきた海事産業。この地には、チャレンジ精神旺盛な気性と、ものづくりにかける心意気を今日まで受け継いできた誇り高き文化がある。



File 01

今治造船株式会社
今治営業グループ

藤川 浩史さん

道を切り拓く人

新造船の建造量は13年連続で国内首位をキープし、世界第3位！
世界に名を馳せる今治造船グループ。
地元の人は愛着を込めて「イマソウ」と呼ぶ。

ここ、イマソウ(今治造船株式会社)で働く藤川浩史さんは、愛媛県松山市出身。大学時代はボート部に所属し、全日本選手権で活躍した経歴をもつ。関東の実業団から誘いもあつたが、「地方から中央へ挑戦したい、地元で貢献したい。」という思いから、愛媛県内での就職を決めた。

ひとつ興味深いエピソードをつかかった。大学最後の夏休み、藤川さんは自転車で国内を旅していた。長旅を終え、ようやく帰ってきた愛媛の地。最後に休憩をとった場所が、偶然にも今治造船の西条工場の前だったという。弁当を食べながら、目の前の巨大クレーンで大きな船が組み立てられる光景を圧倒されながら見つめていた。「すごい！地元にはこんなスケールの大きな仕事もあるのか！」まさか自分が近い将来この会社で働くことになるうとは思いません。その後、今治造船が実業団チームとしてボート部をつくるという話が持ち上がる。その話は藤川さんの耳にも入った。神の采配とも思えるそんな運命的な出会いにより、藤川さんは今治造船株式会社に入社した。

今治造船ボート部は、1期生の藤川さんただ一人からはじまった。17時までは通常勤務、仕事が終わってから練習というハードな日々。懸命な努力の甲斐あつて部員も増え、チームは着実に力をつけていく。2015年にはアジア選手権大会にも出場。世界を相手に戦えるまでに。創部時に掲げた目標を全て達成した藤川さんは現役を引退し、現在は監督として部員を率いている。何もないところから何かを生み出すことは大変な苦勞もあつた。ただ、「誰もやっていないことをするのが楽しい」と笑う。根っからの挑戦者であり、好奇心旺盛、常に新しいものを求める気概にあふれた人のようだ。

現在、藤川さんは、営業職として充実した日々をおくっている。造船会社の営業は、一般的な企業の営業とは異なる。いわゆる飛び込み営業のようなものはない。新造船の場合、オーナーとなるお客様から引き合いがあつて、正式な受注までには数ヶ月を要し、建造から引き渡しまでとなるとさらに長い時間がかかる。この船づくりの引き合いから引き渡しまでを、お客様と設計や工務・現場との間に立つて折衝業務を行うのが営業の仕事。建造中のお客

様との細かなやりとりから、進水式・引渡式など式典のコーディネートや引き渡し後のアフターサービスまで、仕事内容は多岐にわたる。工場へ行くこともあれば、お客様と一緒に試運転の船に乗って海上に出ることもある。

造船の仕事の魅力は、第一にそのスケールの大きさだ。船価は数十億単位。また、国内にいながらにして世界を相手に仕事ができることも特徴的だ。藤川さんも、外航船の建造営業で海外との関係が深く、世界的視野で物事を見ることができると魅力を感じているという。

「もちろん、うまくいくことはありません。トライ&エラーを何度も繰り返しています。藤川さんは言う。ボート競技ではわずか7分間の試合に最高の結果を出すために、選手は長い期間をかけて地道な基礎トレーニングを重ねる。それは仕事においても同じだ。一足飛びで成功することはない。「何かをしよ」と思ったら、まずは基礎をしっかりと身につけることが重要。」藤川さんはこれからも、学び続け、考え続けながら、この今治の地で新たな新しい道を切り拓いていくだろう。



1_社内で打ち合わせ中の藤川さん

2_巨大なクレーン



3_今治造船本社・今治工場
発信と終結、ここがネットワークの中枢機構。

4_今治造船ボート部



厚いもの、薄いもの、ふわふわのもの、さらりとしたもの、
タオルの個性は千差万別。タオルの触り心地を決めるのは、
原材料の綿花の種類、糸の撚り方、晒しの技術、織り方など、
様々な要素の組み合わせ方。
自分好みのタオルが見つければあなたの暮らしは
きつともっとたのしくなる。

IMABARI
TOWEL

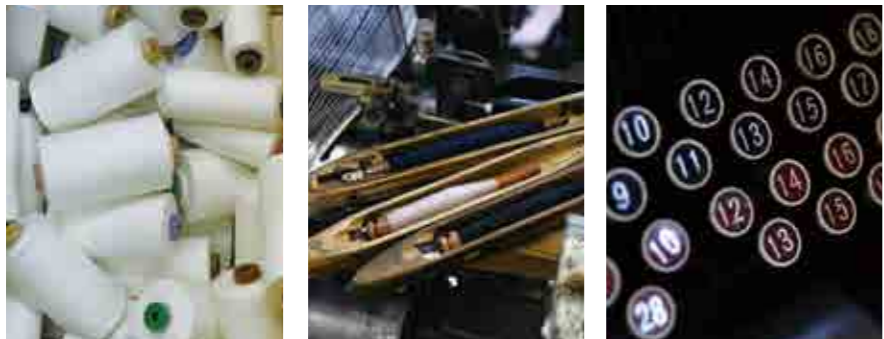
それは、
ジャパン・クオリティ

120年の歴史を刻み続けてきた今治のタオル産業。今治市内には、染色やプリント、刺繍、縫製なども含めるとタオルに関わる大小さまざまな企業が200近くもあり、そのため、素材選びから後処理に至るまで、一連の仕事がこの地域の中だけで完結する。国内のタオルの5割以上を生産する日本一の産地であり、現在は、「今治」という地名から「タオル」をイメージされることも多くなった。

しかし、ここまでの道のりは、決して順風満帆ではなかった。一時期は廉価な海外産のタオルに押され、今治のタオル産業は存亡の危機にさらされていた。廃業が相次ぎ、疲弊した産業を立て直したのは、今治タオルが本来もっていた素晴らしいリソース。「安全・安心・高品質」という本質的かつ確かな価値に他ならない。それらを引き出し、つくり手たちに誇りを取り戻させ、今治タオルプロジェクトを牽引したクリエイティブディレクターの佐藤可士和氏の存在は大きい。

吸水性や耐久性など、厳しい品質基準をクリア

したタオルだけに与えられる認定ラベルが、「Imabari towel Japan」のタグ。その世界最高レベルのタオルは、日本国内はもちろん世界中で愛用されている。東京の直営ショップや海外進出などを経て、ネームバリューは大きく向上、今治のタオル産業は、ブランディングの成功により見事復活を遂げた。今後も更なる躍進をめざし、今治タオルの挑戦はまだ続く。



守ること 進むこと

みやざきタオル株式会社

宮崎 陽平さん File 02



いる。

「今までにないタオル製品を作りたい。新しいマーケットの創造が目標です」。そう話すのは、みやざきタオルの四代目にあたる宮崎陽平さん。高校卒業後、東京とイタリアで学生生活、社会人生活を送り、今治にリターンした。

みやざきタオルは、一八九六年創業。今治のタオルメーカーの中でも古い歴史を持つ。以前は、問屋を主な取引先として、バス

タオルやフェイスタオルなど、いわゆる一般的なタオルを大量生産していた。現在の路線に舵取りしたのは先代、陽平さんの父、宮崎弦氏。ヒット商品となった「コット

ンマフラー」の考案者である。

弦氏が急逝し、26歳で会社を継いだ陽平さんは、独自のものづくりに絞ることを決め、会社の改革を行なった。従来のやり方をガラリと変えることは痛みをともなうことでもあった。しかし、守るために進むほか道はなかった、と当時を振り返る。

陽平さんがデザインした新しいパッケージを起用してリニューアルしたコットンマフラーは、グッドデザイン賞を受賞。その後も、シヨール、ネクタイ、ブランケット、ハンカチなど、これまでありそうでなかったユニークなタオルアイテムを続々と開発して

しかし、こうしたオリジナリティあふれるものづくりも、決して自社のみで独占しようと思っていない。「産地の皆が参入でき、地域全体が潤うような商品を作りたい」。東京、イタリアで、ものづくりの面白さを知った陽平さんは、今治という一大タオル産地で、自分の進むべき道を見つけた。帰郷してあらためて今治の良さを知ったという。「今治が好き」という陽平さん。仕事の合間、今治の豊かな自然の中で、遊び楽しむことを通じて、新たなアイデアも生まれていくそうだ。

生前はものづくりをめぐる、よくケンカになっていたという父子。今治の地場産業を守り育て、そして支えたいという先代の強い想いは、新しい色を寄せ、陽平さんにしっかりと引き継がれている。



1



2



3



4

1_いまばりマフラー70

2_趣味は、マウンテンバイク。
休日には近くの山で仲間たちとダウンヒルを楽しんでいる。

3_みやざきタオルにのこる、糸を紡ぐ音の機械？

4_アナログなものが好き。
デジタル全盛期において、あえてレコード盤で音楽を聴くこだわり。
その感性がものづくりに生かされている。



2

1

1_自身が出張中のホテルで火災に遭って避難した経験から開発した「いまばりレスキュータオル」。
グッドデザインベスト100、グッドデザインものづくりデザイン賞を受賞した。

2_陽平さんがデザインしたパッケージの「いまばりマフラー70」。



工場なのに、宮殿。
そのギャップが面白い。

正門をくぐると、目の前に広がる手入れの行き届いた美しい庭園と宮殿。思わずSNS発信したくなる。

オーストリアのウィーンにあるベルベデーレ宮殿とそっくりな工場で作られているのは、なんと、焼肉のタレ。その外観から食品工場とは想像しがたいが、この業務用タレの出荷量は、全国の約40%を占めており、日本一のシェアを誇っている。

他にも、市内には規模も取り扱う品も様々な食品企業がある。老舗の伝統を踏まえながら新しいニーズに応え挑戦している製菓会社、日本酒の酒蔵、瀬戸内の豊かな海の幸をいかしてかまぼこなどの練り物をつくる会社。また、伯方島の製塩会社はCMでも全国的に有名。

今治人は新しいもの好き、といわれる。珍しいものや新しいものに飛びつく旺盛な好奇心をもち合せている人が多いのだろう。そんな今治の地で、これからもユニークな発想で新しい食文化が拓かれていく。



写真はKO宮殿工場。
今後、今治新都市にも新たな宮殿ができる予定。

宮殿でつくる、タレ。

File 03

日本食研ホールディングス株式会社
愛媛技術開発部

小森 由衣さん

世界にひとつだけの味を生み出す

入社六年目の小森由衣さん。出身は大阪。京都大学を卒業し、今治市に本社がある、日本食研ホールディングス株式会社に就職した。入社以来、研究職として技術開発部に勤務している。

小森さんの業務は、お得意先からの要望に沿ったオリジナルの商品を開発すること。外食店や食品メーカーなどが主な取引先だ。お得意先の要望に迅速・的確にお応

えするため、営業担当者同行し直接商談の場に赴くこともある。お得意先と営業担当者、そして生産現場との連携も重要で、コミュニケーション能力も問われる仕事だ。「他社ではできないと言われていた調味料を、一年かけて開発できた時はとても嬉しかったし、やりがいを感じました。大変なこともあるからこそ、それが自分自身の成長につながっています。」と彼女はいつも前向きだ。

小森さんは社内の海外研修制度に応募し、数か月間、同社の海外工場(米国・中国)で学んだ経験も持つ。また、フードインストラクターの資格を取得するなど、お得意先や営業担当者いかに自分が役立つのか、わかってもらうための努力は惜しまない。常に積極的に仕事に取り組んでいる背景には、新入社員の頃から大きな仕事に関わる機会に恵まれたことがある。「早い段階で自分の仕事のつながりをイメージできたのは、大きかったと思います。」その成功体験が、自信や仕事の楽しさにつながっている。

小森さんのこれからチャレンジしたいことを尋ねると、「海外」という答えが返ってきた。自分の視野を広げ、業務レベルを向上させること、自己成長や自身のキャリアアップを考えていく中で、自然に「海外でも仕事をしてみたい」と思うようになったそう。

今治に居ながらにして、世界を見据える



1_お得意先の要望に沿った味を、忠実に作りだすことが要求される仕事。常に味覚を研ぎ澄ませます。
2_今治に来てからサイクリングが趣味になったという。休日は自慢のロードバイクでしまなみ海道を楽しんでいる。

File 04



今治に人を呼ぶひと

今治の観光業にはなくてはならない存在がある。「今治地方観光協会」。今治地方の観光振興のための事業の企画・立案・運営にあたる団体だ。一見、堅いイメージのある観光協会に一風変わった職員がいる。矢継ぎ早に新しい企画を立ち上げ実行していく。今治に人を呼ぶ、その火付け役。

公益社団法人今治地方観光協会
南條 仁さん



橋や島々から眺める多島美は、フランスミシュランガイドの一ツ星に選定され、2014年にはアメリカ・CNNの旅行情報サイトにおいて「世界7大サイクリングコース」の一つとして紹介された。

ココロが元気になる旅

美しい海と島の風景、そこに刻まれてきた歴史と文化が一体となって旅人を魅了する今治。この地には一年を通じて多くの観光客が訪れる。

今治市と広島県尾道市を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」は、「サイクリストの聖地」と呼ばれ、毎年32万人以上のサイクリング愛好家が訪れる人気のエリアとなった。2014年に開催された国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ」では、国内外から参加した7千人以上が絶景を堪能できる多彩なコースを走破。この大会はその後2年に1回継続開催されている。しまなみ海道だけではなく、今治市内、陸地部においても、いろいろなサイクリングイベントが行われている。

このサイクリング人気の高まりとともに、今治の観光業にも変化が起こりはじめた。店先にサイクルスタンドを設置したお店が増え、サイクリストが休憩するための「しまなみサイクルオアシス」が整備され、交流拠点となるゲストハウスの運営、ホテルなどにおける自転車の部屋への持ち込みサービスなど、それぞれの事業者がサイクリストをもてなすための様々な取り組みをはじめている。また、今治は、瀬戸内海航路を掌握した「村上海賊」のストーリーが日本遺産となったこともあり、今まさに新しい観光産業の出发点に立っている。

観光写真コンテンツの開催、フィルムコミッション事業など仕掛けた事業は数知れず。2015年に公開された映画「ボクは坊さん。」は、今治市内を中心にロケが行われた。映画やドラマの制作会社からオファーがくると、ロケハンからエキストラの募集、地元との調整まで、目が回るような忙しい日々が始まる。大変だがやりがいと大きな手ごたえを感じているという。映画やドラマ、テレビCM、雑誌などの誘致に力を入れるのは、メディアの重要性を知り尽くしているから。この土地の魅力を発信していきたいという彼の熱い想いは、多くの人の心を動かす力になる。今年三回目を迎えたサイクリングイベント「ツールド玉川」は、南條さんの企画でスタートした。しまなみ海道のサイクリングが世界的にも有名になったが、今治の魅力はしまなみだけではない。「山もある!」そんな思いから、市内の山間部、里山、深谷、山岳と変化に富んだ田舎道を走るサイクリングイベントを思いついたのだ。こんな山の中に本当に人が来てくれるのだろうか?と一抹の不安もあったというが、それは杞憂に終わる。今や日本全国から健康自慢たちが集つて人気のイベントとなった。今、南條さんは、この地方の豊かな自然のフィールドを最大限に活用することを考えている。「サイクリングだけでなく、カヌーやトレッキングなどいろいろなスポーツを融合させたイベントを開催したい。」

1_山間部を走るサイクリングイベント「ツールド玉川」。

2_撮影やロケにも同行する。この地域のビューポイントを知り尽くしている。



世界に誇る
美しきいらか薨の波



菊間瓦
日本の伝統 × 瀬戸内の自然

日本の美しい原風景にある屋根瓦。今治市の「菊間瓦」は七百五十以上の歴史をもつ。その特徴は「いぶし銀」と呼ばれる色にあり、美しい日本文化を象徴する存在。

雨が少なく温暖な気候により、早く瓦が乾燥すること、目の前の海から各地へ運送が容易にできること、窯を焚くための薪が近隣の山で調達できること、これらの条件がそろったことが、この地方での瓦産業界の追い風となった。

その品質は、御用瓦とされるほど高級ブランドとして評価され、全国各地の住宅はもとより、日本建築を代表する神社仏閣に多数使用されている。

住宅や寺社などの和風建築の屋根でにらみをきかす鬼瓦―古くから日本人は、鬼瓦に厄除けと装飾の役割をもたせてきた。

千年以上も前に大陸から伝わった技を今に伝え未来へ引き継ぐのが、「鬼師」と呼ばれる鬼瓦づくりの専門職人。長く険しい修行の道。そんな厳しい職人の男性社会の世界に飛び込んだ、女性唯一の鬼師がいる。

伝統産業
Emotion



- 1_四国霊場八十八ヶ所 五十四番札所 延命寺の瓦の葺き替え工事では晴香さんの鬼瓦が屋根に上がった。
- 2_ひとつひとつ姿が異なり造形も複雑な鬼瓦づくりは、機械化することができず、昔ながらの緻密で繊細な手作業が今も受け継がれている。
- 3_晴香さんの仕事道具。
- 4_施主の希望によってどのようなものも鬼瓦になる。剣道の面を意匠にしてほしいという依頼を受け、剣道面の鬼瓦を制作中。

いにしえと数百年後の
未来をつなぐ

File 05

菊銀製瓦 鬼師
菊地 晴香さん

（株）菊銀製瓦で働く菊地晴香さん。鬼師であつた祖父に憧れて鬼師の道に進んだ。

「子供の頃からものを作ることが好きだったので、いつか仕事に就ければいいなと思っていました。自分ではあまり覚えていないのですが小学生の頃から周囲には「鬼師になりたい」と言っていたそうです。「幼い頃から祖父の仕事を見て育ち、高校卒業後、本格的に菊銀製瓦で仕事を始める。祖父を師匠とし、弟子入りしたのかと尋ねるとそうではないと首を振った。「いじちゃん昔ながらの職人で、見て覚えろ！」と言われ続けていました。わからないことがあつて聞きに行ったら、『自分で考えろ！』つて。近くて見ようとすると思られる

し。」と、懐かしそうに笑う。職人氣質の祖父。息子の代を飛び越え鬼師を目指した孫。自分の跡を継いでくれたことを、祖父は心底喜んでるに違いない。

長い歳月の間、風雨にさらされるとやがてはひび割れ、朽ちる。そのため、歴史的建造物の屋根に上がっている鬼瓦は、先人が数百年ごとに新たなものに作り直し、その美しさを競い保ってきた。

いにしえの職人に倣い、再現して、未来へと引き継ぐ―これも、現代の鬼師に求められる重要な役割。鬼瓦という日本のモノづくりの伝統を守り伝える使命はもちろんのこと、遥か後世の人々にまで恥じない仕事を残

すというやりがいや情熱は、他の職業ではなかなか味わえるものではないだろう。

今治で生まれ育った晴香さん。都会への憧れがないわけではなかったが、「鬼師」という自分の夢を叶える場所は、この今治だった。「今治は住みやすく、とてもいい所ですよ。」と晴香さんは言う。仕事もプライベートも充実した日々を過ごしているようだ。

晴香さんへの仕事をやっていてよかつたと思うことは何かと尋ねてみた。「いつか自分が死んでも、この鬼瓦が百年先、二百年先の先もずっと残ること。」

その瞳には、自分の選んだ道に対する自信と誇りが満ち溢れていた。

瀬戸内の島でワインづくり

File 06

大三島みんなのワイナリー
川田 佑輔 さん

建築家の伊東豊雄氏らが進める「日本一美しい島・大三島をつくる」プロジェクトを知り、初めて大三島を訪問した川田さん。瀬戸内海は日本の地中海と言われているのに、ブドウはあまり栽培されていないことに気

しまなみ海道の島、大三島でブドウ栽培をはじめた若者がいる。静岡県出身の川田佑輔さん。2015年大三島に移住した彼は、この島でワインづくりへの第一歩を踏み出した。



美味しいものは
景色のいいところで
うまれる

がついたそう。「それなら大三島でワインをつくったら面白いのでは？」と、最初はそんな小さな思いでした。しかし、そんな軽い一言から事態は急展開。ワイナリープロジェクトは怒涛のスピードで大きくなる。地元の人たちからの応援を受け、今や支援者500人以上の一大プロジェクトに成長を遂げた。当時、ワイナリーを学ぶため山梨大学に在学中だった川田さんも、大三島に移住することを決意する。

海に面した南向きの斜面にひらいたブドウ園に、シャルドネ種とワイオニ種を植えている。ワイナリーで研修はしていたものの、ブドウを一から育てるのは初体験。理論はわかっていても、自然相手の仕事はなかなか思い通りにはいかない。インシンに畑を荒らされることもある。困った時に頼りになるのは、地元のベテラン農家さん。特に、移住の先輩でもある柑橘・養蜂農家の林豊さんは強力な助っ人だ。みんなの協力があつてのワイナリーづくり、ということ。プロジェクト名はその名も「大三島みんなのワイナリー」。

四年後には、大三島にワイナの醸造所をつくる計画があるそう。いつか、実を結ぶ大三島のワイナ。大三島産ワインで乾杯できるその日を、みんなが心待ちにしている。



国内最大級の直売所「さいさいきて屋」。生産者には固定ファンがつきすぐに売り切れてしまう。農家が出荷した物を全て売り切ることが目標だ。

今治地方は、温暖で雨が少なく、台風などの自然災害を受けることも少ない地域。地元の人には愛情を込めて「いしつっつあん(石鎚山)が守ってくれる」という。こうした豊かな自然環境を生かし、米や柑橘を中心として、さまざまな農産物がつくられている。

愛媛といえば、みかん。特に島のみかんのおいしさは折紙つきだ。日当たりのよい傾斜地は柑橘の栽培に適しており、太陽の光と潮風をいっぱい浴びて育つ。みかんの花が咲く時期には、さわやかな香りが訪れる人を包み込む。その収穫時期には、島がオレンジ色に染まる。

そんな自然の中で、農業をすることに魅せられ、都会から今治に移住し、新規就農する若者も増えてきた。

農業は、私たちの命をはくむ大切な仕事。その使命感をもって日々自然の中で汗を流し、心豊かに暮らす―都会暮らしでは味わえない感動がそこにはある。実際にやってみると大変なことも多いだろう。しかし、知れば知るほど、深く面白いくらいの世界。そんな世界の中で、若い力による今治の農業の可能性は、ますます広がっている。



1_伊東建築塾生らがリノベーションした「大三島みんなの家」。ここで川田さんは、週末の夜だけのワインバルをオープンさせている。
2_ブドウ畑からは、瀬戸内海の美しい島々を見渡すことができる。ブドウは潮風と太陽の光を浴びながらすくすくと育っている。



今治に大学ができる!? 獣医学部開設

国の「国家戦略特区」に、今治市が指定された。市が要望している獣医系大学の誘致に関する規制を取り払う方向で協議している。獣医師養成系大学は全国でわずか16校しかなく、半世紀近く新設されていない。四国は空白地となっており、獣医師が慢性的に不足している現状がある。誘致が実現すれば四国で初めての獣医大学が誕生するかも!?



最近なんだかにぎやかですよ?
どーなる!?
イコバ!



港の新しい
スポット!
はーばりー

みなと交流センター「はーばりー」

2016年夏、今治港に出現した黒い巨大船のような建物。港町今治に新たなシンボルが誕生した。港湾ビルに代わる交流施設で、愛称は「はーばりー」。建築家・原広司氏の設計だ。海運会社や市の施設、地元ラジオ局などが入り、レンタサイクル施設、フェリー待合所の機能も。1階と4階にはカフェとレストランがある。展望デッキは来島海峡大橋も見える絶景ポイント。

2014年、今治のサッカーチームに「世界の岡田武史」がやってきた。FC今治は、2024年には、J1で優勝争いを行うチームとなり、日本代表選手を5人以上輩出する目標を掲げているという。そんな夢のような話に最初は驚いた市民も、チームが少しずつ積み上げてきた実績によって、「もしかして」という期待を抱くようになった。市民あげての応援の輪が次第に広がっている。
2012年のゆるキャラ@グランプリで1位に輝いた今治地方観光大使のバリエさん、世界に名を馳せる今治タオル、日本一の造船会社サイクリングの聖地…明るい話題には事欠かない今治。今治新都市には大型ショッピングモールがオープン。その近くには、FC今治のスタジアムが現在建設中。
この夏、港には交流をコンセプトとした施設が完成し、中心商店街もかつてのにぎわいを取り戻すべくがんばっている。ここ数年、「今治がおもしろい」とよく言われるようになった。
今、今治がきている。

今、すごい勢いを
感じています。

by 住民



今治の未来をつくるひと



株式会社今治・夢スポーツ/FC今治
クラブ事業本部
マーケティング事業部
イノベーション事業部

中川 悠美さん

File 07



兵庫県出身。2016年関西学院大学卒業。大学在学中に参加した新聞社主催の事業で、岡田武史氏と出会う。多くの学生の中で彼女に何か光るものを見出したのだろう、その後、新聞社経由で岡田武史氏から声が掛かった。思いもかけなかったことに、とても驚いたという。会って話を聞くと、夢に向かって挑戦する岡田氏の姿に感銘を受けた彼女は、「自分も今やらないと後悔する!」と、内定していた東京の企業を断りFC今治に入社した。現在、スポンサー営業の業務を中心に毎日忙しく働いている。

初めて暮らす今治のまち、その印象を聞いてみた。「とても住みやすいと感じています。人も優しく親切。どこかんびりしていて、忙しい時でもホッとできる雰囲気があります。」都会と比べると物足りなさを感じることも多いのでは、と気になったが「物が溢れて多すぎることもなく、かといって足りないこともなく、必要なものは程よく足りている。」と。今治のことには知らないことが多いと言いつつも、休日を利用して大島の亀老山にドライブしたり、鈍川温泉に行ったりと、今治ライフを楽しんでいるようだ。
FC今治は、「J1で優勝を争い日本代表選手を輩出するチームになる」という目標に向かって走っている。「岡田オーナーが本気でそう信じていることが何よりもすごいし、スタッフもそれを信じて懸命にサポートしていることが本当に素晴らしい」と中川さん。信念と夢をもって仕事と向き合う仲間がいる。それは彼女の大きな支えになっているのだらう。
「都会や賑やかな場所に行くよりも、自分が今いるところでそんな場所をつくる方がおもしろい。これから先、サッカーだけでなく、スポーツや音楽やダンスなど様々なものを求めて、この今治の地に多くの人が来てくれるようになることが楽しみです。」
その瞳は、まっすぐに未来の今治を見つめている。



ドルフィンファームしまなみ

伯方島の道の駅「伯方S.C.パーク」に隣接したビーチの奥に、イルカやクジラと触れ合う事ができる施設がオープンした。イルカやクジラの背びれにつかまって1周したり、イルカと一緒に自由に泳ぎながら水中での観察ができるコースや、海上デッキからイルカと握手やキスをしたり、餌をあげたりして遊びながら生態を学べるコースなどがある。



イオンモール今治新都市

モールコンセプトは「しまなみ 7つ目の島」。しまなみ海道をつなぐ6つの島から最後につながる7つ目の島として、四国初・最大級のファッション、雑貨、グルメが集まる大型ショッピングモールが2016年春にオープンした。地元今治市内からはもちろん、県内外からも多くの人が訪れている。

愛媛の元気なシゴトに出会える!
|ターン、Uターン、就職、転職におすすめのサイト

	若者向け就職支援センター ジョブカフェ愛work http://www.ai-work.jp/
	就職活動におすすめ。求人情報サイト 愛workナビ http://www.ai-work.jp/jobinfo/
	職種・業界研究におすすめ お仕事まるごと研究所 http://www.ai-work.jp/marugoto/
	学生スタッフが取材、若者目線で企業を紹介 マルワカリWEB http://www.ai-work.jp/maruwakari/
	今治で働く、今治で暮らす ハタラク(今治地区産業雇用促進協議会) http://www.barijob.jp/

どんな暮らしをしたいかイメージしてみよう!
移住の情報満載!愛媛県への移住関連サイト

	愛媛移住支援ポータルサイト e移住ネット https://www.e-iju.net/
	移住向け物件紹介サイト えひめ空き家情報バンク http://www.e-iju.net/akiya/public/Top
	移住フェア、愛媛の職の紹介サイト えひめ職の担い手移住サイト http://ehime-iju.jp/
	今治市移住者向けの支援制度など 今治市HP(地域振興課) http://www.city.imabari.ehime.jp/chiiki/ijyu/
	今治・大三島の空き家情報など しまなみの島ぐらし http://www.shima-do.com/

今治の特産品など素敵なプレゼントが当たります

本誌を読んでアンケートにお答えいただいた方の中から抽選で素敵なプレゼントが当たります。パソコンからスマホ、ハガキでアンケートに答えてご応募ください。

プレゼント賞品

	3名様		5名様
1 オージニックコットンのタオルマフラー 今治マフラー		2 愛媛・今治のPRキャラクター パリエさんグッズ	
			3名様
		3 愛媛旬の柑橘セット	
			5名様
		4 日本食研商品 詰め合わせ	

ハガキでご応募

ハガキに次の①～⑥を明記の上、下記宛先までお送り下さい。
①本誌を読んだ感想 ②ご希望のプレゼントの番号(ひとつ) ③郵便番号・ご住所 ④お名前
⑤年齢 ⑥お電話番号

応募先

〒799-1581 愛媛県今治市喜田村1丁目6-40 第一印刷株式会社内 今治スタイル 係

受付業務は、第一印刷株式会社が代行します。個人情報を申込者の許諾なく第三者に提供することはありません。個人情報はプレゼント賞品の発送およびアンケート集計にのみ利用し厳重に管理いたします。プレゼント賞品に関するお問い合わせは、第一印刷株式会社内 今治スタイル係(TEL0898-48-8333)までご連絡ください。当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。
応募締め切り 2017年2月24日(金)ハガキの場合当日消印有効

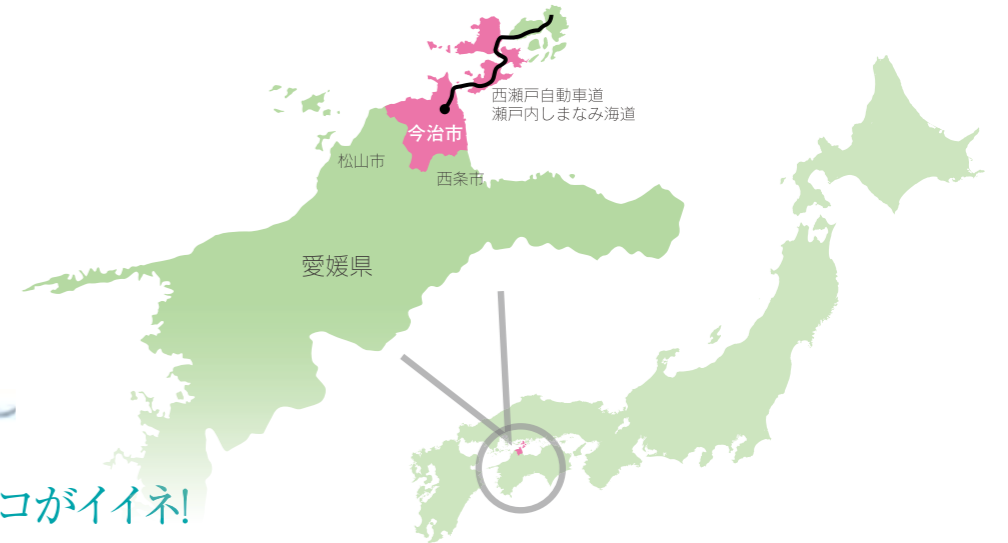


パソコン・スマホでご応募
(アンケートにお答えいただけます)

https://questant.jp/q/imabari_style_2

いま ぱり
今治ってこんなトコ!

走り出したチーターのような形をしている愛媛県、その頭のあたりが今治市(いまぱりし)。人口は松山市に次ぎ県下で2番目。波穏やかな瀬戸内海に面した港町で、西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)で広島県尾道市と結ばれている。



今治の住みやすさ ココがイイネ!

気候 災害が少なく晴天の日が多い瀬戸内海気候

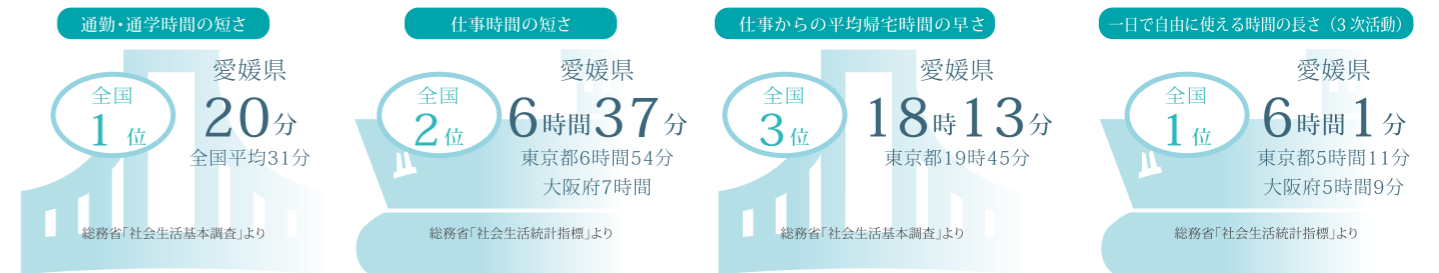
温暖で比較的降水量が少なく晴天が多い気候。四国山地にさえぎられているため、四国に上陸した台風も今治地域は影響をあまり受けない。自然災害が少なくとても住みやすい。

県民性 おだやかで温かな人柄

愛媛県の県民性は、おだやかで温和、お遍路さんをもてなす文化が根つき、人に親切で人情味あふれる県民性とされる。今治市を含む東予(とうよ)地方は、古くから関西との交流が盛んだったこともあり、明るくアクティブ、きさくな商売人気質の人が多くと言われている。

愛媛で暮らすと自分の時間を楽しめる! 暮らしに関する統計データを調べてみると、驚きの結果が!

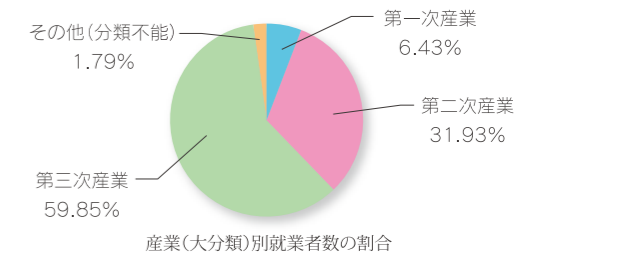
通勤・通学にかかる時間が全国一短い。これは、多くの企業があることや、住環境が充実しており安い費用で仕事場に近いところに住むことができること、駐車場代も格安なので車やバイクを所有している人が多くスムーズに移動できることなどが影響していると考えられる。また、仕事に費やす時間が短いのも特徴。早く帰宅でき、自分の時間を楽しむ人が多いといえる。



数字でみる 今治 意外に多い自営業。愛媛県内では松山市に次ぐ第二位の人口、事業所数!

今治市の人口158,185人 人口密度 1 km²あたり.....377人
資料/国勢調査 総務省統計局(H27速報) ※東京都 6,168人(H28調べ)

今治市事業所数(民営事業所).....8738事業所
資料/経済センサス活動調査(H24調べ)



事業所数

- 1位 卸売業・小売業2,448
- 2位 宿泊業・飲食サービス ..1,055
- 3位 製造業1,005

従業者数

- 1位 製造業15,511人
- 2位 卸売業・小売業 ..14,814人
- 3位 医療福祉9,046人

第一次産業...農業・漁業・林業
第二次産業...建設業・製造業・鉱業・採石業・砂利採取業
第三次産業...電気・ガス・水道・運輸・通信・小売・卸売・飲食・金融・保険・不動産
サービス・公務・その他の産業



imabari style
VOL.2 [産業編]
2017

四国・いまばり

今治スタイル

いまばり
四国・今治
IMABARI